

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年	2	選択
担当教員			
工藤 幸一			
B（経営学科）	S（専門科目）	BA（経営）	302（上級科目）

授業のねらい（概要）	日本の中小企業の現状と役割及び中小企業の量的・質的定義、自営業者・ベンチャー企業・中堅企業等の中小企業類型、日本の中小企業の数の推移、開業・廃業の状況とその要因など中小企業の構造的特質について概説したうえで、中小企業の問題性と貢献性、中小企業の労働問題、中小企業と下請制、中小企業の存立分野と産業集積について学修するとともに、近年の地域における中小企業の経営上の課題について考察する。
授業計画	第1回 【遠隔】講義内容、履修上の注意事項に関するガイダンス 予習（時間）：シラバスの内容を理解する。（120） 復習（時間）：自分の時間割編成を考え履修するかを決める。（120） 第2回 【遠隔】中小企業とは何か 規定、規模構造 予習（時間）：最新年度版中小企業白書を参照する。（120） 復習（時間）：視聴VTRの内容のノート整理。配布資料や講義ノートの整理する。（120） 第3回 【遠隔】中小企業と大企業の経営の違い 産業構造の転換による大企業と中小企業の関係の変化 予習（時間）：「産業構造の転換」とはどのようなことかを図書やインターネットなどを使い調べておく。（120） 復習（時間）：講義ノートの整理をする。（120） 第4回 【遠隔】中小企業論と中小企業経営論経営とは何か 予習（時間）：経営学総論のテキストの「経営」の概念の箇所を読んでおく。（120） 復習（時間）：講義ノートの整理をする。（120） 第5回 中小企業政策の転換 中小企業基本法の改正 予習（時間）：2000年版中小企業白書第3章を参照する。（120） 復習（時間）：講義ノートの整理をす予習する。（120） 第6回 中小企業政策の転換 中小企業の社会経済的役割と政策理念の転換 予習（時間）：2000年版中小企業白書第3章を参照する。（120） 復習（時間）：講義ノートの整理をする。（120） 第7回 【課題】群馬県の中小企業の規模構造 群馬県の中小企業の事例 予習（時間）：（有）中里スプリング（株）富士製作所について図書館やインターネットなどを使い調べておく。（120） 復習（時間）：配布資料や講義ノートの整理する。（120） 第8回 中小企業の存立形態 独立形態の中小企業 予習（時間）：配布資料を事前に読む。（120） 復習（時間）：視聴VTRの内容のノート整理。配布資料や講義ノートの整理する。（120） 第9回 中小企業の存立形態 従属形態の中小企業 予習（時間）：配布資料を事前に読む。（120） 復習（時間）：配布資料や講義ノートの整理をする。（120） 第10回 戦後の下請け中小企業の歴史的変遷 予習（時間）：「日本の高度経済成長」について図書やインターネットなどを使い調べておく。（120） 復習（時間）：視聴VTRの内容のノート整理。配布資料や講義ノートの整理する。（120） 第11回 【課題】下請け中小企業の構造変化 産業の空洞化現象 予習（時間）：「産業の空洞化現象」とはどのようなことかを図書やインターネットなどを使い調べておく。（120） 復習（時間）：視聴VTRの内容のノート整理。配布資料や講義ノートの整理をする。（120） 第12回 中小企業の技術革新・マーケティング 予習（時間）：最新年度版中小企業白書を参照する。（120） 復習（時間）：講義ノートの整理をする。（120） 第13回 【課題】中小企業のグローバル化への対応 世界最適調達と情報戦略 予習（時間）：最新年度版中小企業白書を参照する。（120） 復習（時間）：配布資料や講義ノートの整理をする。（120） 第14回 中小企業のマネジメント革新 経営者と人材育成 予習（時間）：2000年版中小企業白書第3章を参照する。（120） 復習（時間）：講義ノート、配布資料の整理をする。（120） 第15回 まとめ 中小企業経営の今後の課題 予習（時間）：講義ノート、配布資料の全体的な整理をする。（120） 復習（時間）：試験のために視聴VTRの内容のノート整理。配布資料と講義ノートの整理。（120）
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	DP（経営学科）の1項目を意識した科目となっている。 1. 経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を多面的に理解し、活用できる能力 【身に付くスキル】 論理的思考力・職業倫理感
到達目標	事業所の99%以上を占める中小企業とはどのような経営体であるのか、日本の中小企業の特徴と産業構造に占める社会的経済的重要性を理解する。
課題や小テスト等のフィードバック	必要に応じて予習の課題についてのレポート提出を求める。提出物に関しては授業の中で適宜取り上げる。

の方法	
履修上の注意	講義の進め方、単位認定試験に関してはガイダンスにおいて説明するが、半期の講義で短期間に中小企業経営の(1)基礎理論(2)中小企業経営の新たな展開までの解説をするために毎回の講義への出席が絶対条件となる。中小企業経営の特色を理解し実践論＝経営者論＝マネジメント論を理解することを目標とするため板書とケース・スタディーを中心とした解説をおこなうので、講義ノートを作成し、これを持ち込み試験に対応してほしい。授業アンケートによると講義ノートの作成を負担に感じる学生がいるようであるが、これに関しては個人差があるので履修の際は注意してほしい。選択科目であるから意欲ある学生が受講するものとして講義を進める。私語は厳禁であり退室させることもあるので注意すること。講義中の携帯電話の使用は厳禁である。電源を切って入室すること。遅刻入室は20分以内とする。
成績評価の方法・基準	①予習の課題についてのレポート提出(20%)②期末試験は試験実施時間90分の論述形式の筆記試験(80%)を行う予定であるが、受講者の人数によってはレポート提出(80%)による成績評価も考えている。
教科書	
参考書・教材	【参考書】 『日本の中小企業一少子高齢化時代の起業・経営・承継 中公新書2468』 著者名：関 満博 出版社：中央公論新社 発行年：2017年 価格：800円 『新版「21世紀中小企業業論」』 著者名：渡辺幸男・小川正博・黒瀬直弘他 出版社：有斐閣 発行年：2006年 価格：2310円 『各年度版「中小企業白書」(中小企業庁HP閲覧可能)』 著者名：中小企業庁編
備考	講義科目 2020年度は、7、11、13回を課題研究として学修する。 第7回 課題研究についての具体的内容やレポート提出の指示は授業時に行う。全体で330分の学習を想定している。 第11回 第7回同様の実施とする。全体で330分の学習を想定している。全体で330分の学習を想定している。 第13回 第7回同様の実施とする。全体で330分の学習を想定している。全体で330分の学習を想定している。 ※「定期試験」は、本学の感染状況への対応を踏まえてレポートで代替えすることがある。
教員との連絡方法	大学ドメインのメール、Mellyの併用。